



生活様式が大きく変わったJAや組合員の皆さまに贈る日本農業新聞の読みどころ集です。「この1週間を振り返る」ため週刊でお届けします。



日本農業新聞の読みどころ

週刊ダイジェスト

2021年8月14日～8月20日付

新潟や福井など米主産地で、2021年産の概算金が固まり、前年より1～2割下げた設定が中心です。コロナ禍で需要が減退、需給緩和から判断。JA全農にいがたは、JAへの仮渡金が「コシヒカリ」1等60*₁万2200円、前年比で1800円下げました。業務仕向け「こしいぶき」は、同9800円で1900円下落。JA福井県も生産者への概算金は「コシヒカリ」1等1万500円で、同2700円の大幅下落となりました。(8/19付1面)

概算金1、2割下げ中心 21年産米で新潟・福井

(8/18付1面)

米の主力産地で2021年産の概算金の提示が始まった。新潟や福井では前年より1、2割下げた設定が中心。新型コロナウイルスの需要減などで、需給が緩和していることが判断材料となった。

コロナ禍在庫増響く

JA全農にいがたは18日、21年産米のJAへの仮渡金(JA概算金)を県内JAに提示した。県内の複数JAによると、主力の一般「コシヒカリ」は1等60*₁万2200円で、前年産当初比で1800円下げた。業務用への仕向けも多い「こしいぶき」は9800円、前年産当初比で1800円下げ、佐渡地区

が1万2600円で同1700円の下げとなった。全国的に20年産の民間在庫が積み上がっていることに加え、新型コロナウイルスの影響などを踏まえて設定したとみられる。一方、高級ブランドの魚沼地区「コシヒカリ」は1万6500円で前年産当初比で据え置きとした。新興銘柄の「新之助」も据え置

東北・北海道 JA会長会

米需給安定へ統一行動

予算確保、支援拡充を

東北・北海道地区道県連会長会は米の需給対策に関して、7道県のJA中央会が道県選出国会議員に緊急要請する統一行動を決めた。米穀周年供給・需要拡大支援事業の拡充、水田フル活用支援の財源・予算確保、過剰在庫対策などが柱。各道県が31日までに要請する。東日本の米主産県が需給安定に向けて一致団結する。

同会は北海道・東北 経費の助成単価・補助のJA中央会長会で、率の増額など、一層の拡充を要請する。要請では、長期 支援と十分な予算の措置を求めた。過剰在庫の米穀周年供給・需要 対策では、備蓄米買い入れの拡大などの市 場隔離を提起した。

21年産、深掘りを進めてきた生産者に対する水田フル活用の支援について、十分な財源確保が必要とした。22年産米以降の水田リノベーション事業の継続

実施も含め、水田フル活用に関する交付体系、助成拡充や恒久的な予算の確保なども要請する。

今後の需給が大幅に緩和した場合に需給環境の改善を図ることや、新型コロナウイルス禍を受け生活困窮者や学生、子ども食堂、フードバンクに国産米を提供する取り組みなどへの支援も提起し



花すくい 心救われ

東北・北海道地区道県連会長会は、米の需給対策に関して、それぞれ選出国会議員に緊急要請する統一行動を決めました。米穀周年供給・需要拡大支援の拡充、水田フル活用支援の財源・予算の確保、過剰在庫対策などが柱。各道県中央会が月内に要請。東日本の米主産県が需給安定に向けて本格的に始動します。(8/17付2面)

今週の記念日

★8月23日「油の日」 京都府大山崎町の離宮八幡宮は、てこを応用した油を搾る道具を発明し、これが企業規模の搾油の始まりであり日本の製油発祥の地と言われています。離宮八幡宮と油脂事業を展開するカネダ(東京)が共同で制定。日付は貞観元年(859年)8月23日に清和天皇の勅命により、九州にあった宇佐八幡宮が大山崎に遷宮されたことから。

